

授業の概要 / Course description

科目基礎情報 / Course information	
開講元学部 / Faculty	外国語学部 / FACULTY OF FOREIGN STUDIES
開講元学科 / Department	
登録コード / Registration Code	FES76100
期間 / Period	2023年度 / Academic Year 秋学期 / AUTUMN
学期 / Semester	秋学期 / AUTUMN
曜限 / Period	金 / Fri 5
教室 / Classroom	金5:
科目名 / Course title	グローバル・ヒストリー入門 / INTRODUCTION TO GLOBAL HISTORY
授業形態 / Course Type	講義 / Lecture
科目ナンバリング / Course Numbering	HST201-50j00
レベル / Level	200
教員表示名	コ) 飯島 真里子
担当教員名 / Instructor	飯島 真里子 / IJIMA MARIKO
単位数 / Credits	2
更新日 / Date of renewal	2023/02/19

講義概要情報 / Course description	
授業実施方法 / Class format	対面授業 + オンライン授業 (オンデマンド授業、同時双方向型授業 (Zoomなど)) / Alternating face-to-face & A/Synchronous (online) classes
授業実施方法に係る追加情報 / Additional information concerning the class format	本講義用のMoodleやZOOM IDは講義開始の一週間前までにLOYOLAにて公開しますので、必ず初回の講義前に確認してください。また、質問等はm-ijima@sophia.ac.jpまでお送りください。 *10月20日(野澤先生)の講義のみ、オンデマンド授業となります。
キーワード / Keywords	Global History Area Studies Global Studies
アクティブ・ラーニングの実施 / Active Learning	あり / Yes
授業の概要 / Course description	本講義は、近年歴史学の分野で注目されているグローバル・ヒストリーの視点を用いて、地域・社会の「過去」について考察することを目的としています。グローバル・ヒストリーの特徴は、一国史の枠組みにとらわれず、国境を移動するモノ・人・宗教・思想・病気などを研究対象とすることで、地域・世界の「繋がりを」歴史的に明らかにしていくプロセスにあります。ここでの歴史的探求は、単に過去を理解することではなく、私たちが生きる現代との「繋がりを」見いだすプロセスでもあります。今回の講義では、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、アジア太平洋地域などを舞台とし、それぞれの地域の専門家が国境を超えた地球規模でのテーマや事例を取り上げ、みなさんと歴史をグローバルな視点から学ぶとともに、歴史を現代社会で学ぶことの有効性について考えていきます。
ディプロマ・ポリシー (DP) との関連 (対応するポリシーは、科目開講元のポリシーである。借入れ科目の場合は、カリキュラムマップを参照のこと) / Correspondence to Diploma Policy of the offering Faculty and Department (Students who belong to other faculties and departments, check Curriculum Map of your faculty and department)	FDP5,FDP6
到達目標 (授業の目標) / Course objectives	1. 歴史学の視点・アプローチ・テーマに関する理解を深める 2. 歴史学が自分の興味関心・研究課題にどのような意義があるのかについて考える 3. 現代を過去とのつながりから捉えることで、今日の社会をめぐる諸問題に対する複数の視点を養う
授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Expected work outside of class	1) 予習課題 (主に教科書の一章を読むなどのリーディング課題) 2) 講義後の課題 (ライティング)
授業1回あたりの授業時間外 (予習・復習等) の学習時間 / Length of time for work expected outside per class	190分
他学部・他研究科受講可否 / Other departments' students	可 / Yes (総合グローバル学部学生のみ可) ※要覧記載の履修対象とする年次を確認すること。 Please make sure to confirm the student year listed in the bulletin.
評価基準・割合 / Evaluation	出席状況 / Attendance (10.0%) レポート / Report (20.0%) その他 / Others (in detail) (70.0%) : 各講義後に行うライティング課題
テキスト (教科書) / Textbook	自由記述 / Free Text : アメリカ・カナダ研究所編『グローバル・ヒストリーズ-ナショナルを超えて』(ぎょうせい、2018年)

講義スケジュール / Schedule	
授業計画 / Class schedule	<p>1/9/29 はじめに 太平洋地域のコーヒー栽培から考えるグローバル・ヒストリーを事例として、本講義のイントロダクション (方法論、講義の流れ、評価等)を行います。</p> <p>2/10/6 「国民国家という概念」 (内村俊太、イェンスピア語学科) この授業では、「国民国家 (Nation State) という分析概念を試論的に整理します。私たちが「国」という日本語を何気なく使う時、そこにはどのような諸側面が入り込んでいるかを考えます。</p> <p>3/10/13 「ネイションの多義性」 (高橋順生、フランス語学科) フランス東部アルザス地方の近現代史を、小説、ポスター、絵画などを使いながら展開することで、「ネイション」の多義性、ナショナル・アイデンティティの多様なあり方について一緒に考えましょう。</p> <p>4/10/20 「食の歴史学」 (野澤文二、帝京大学) *オンデマンド授業 3つの視点から食の歴史学について考えます。 ①「食」は近代歴史学のなかでどのように扱われてきたのか。 ②「食の歴史学」には、どのような研究事例や方法があるのか。 ③「グローバル・ヒストリー」における食の可能性について。</p> <p>5/10/27 「衣類とグローバル・ヒストリー」 (1) (杉浦未樹、法政大学) この講義では「サブサハラアフリカ」と「東アジア」を視点に、衣類のグローバルな歴史を考えていきます。両地域はファッションの中心地とはみなされませんが、その衣類には外の地域との交流と接触の歴史が色濃く反映されています。第一回は19世紀以降、オランダやイギリスや日本が輸出し「アフリカ風」とされた布 (「アフリカンプリント」) の発達をみながら、グローバルなファッションを考えます。</p> <p>6/11/10 「衣類とグローバル・ヒストリー」 (2) (杉浦未樹、法政大学) 第二回は、19、20世紀のグローバルな人々の移動と衣類との関係性を見ていきます。手がかかりするのは、1840年代以降1940年ころまで北米米、東南アジア、中国本土で契約労働に従事した中国人苦力の頭頂部分のトンがった妻むら帽子 (苦力帽) です。同時期の日本、中国、台湾は、世界的な妻むら帽子ブームの一端を、生産と消費のどちらの面でも担っていました。東アジアから世界を移動した人々と、流通した帽子がどのように絡み合うかみていきましょう。</p> <p>7/11/17 オセアニアと南北アメリカ (小堀和仁、英語学科) 歴史には主体 / 客体があるとされます。たとえば男性 / 女性や白人 / 黒人のように。環境史家の一人アルフレッド・クロスビーは「主体=人間 / 客体=環境」という従来の構図を問い直しています。15-19世紀のヨーロッパ(拡張時代を例に考えてみます)。 8/11/24 「ブラック・アトランティック」 (矢澤達彦、ポルトガル語学科) 海城史という歴史の見方があります。その意義とはなんでしょうか。また、対抗的な歴史とも呼ぶべきものがあります。それはどのようなものなのでしょうか。それらの具体例として、大西洋圏に広がる黒人たちの共通性と関係性に対する視座について考えてみましょう。 9/12/1 「境界について考える」 (米山かおる、慶應義塾大学) 境界はどのように作られ、人々に作用するのでしょうか。この回では、冷戦時代に国家の分裂と再統一を経験したベトナムとドイツを例に、その分裂と再統一-歴史的経緯を振り返り、そこに暮らす人々がおかれた状況について取り上げます。また、彼ら・彼女らが直面する物理的、心理的的境界や、経緯の軌跡と試みについてもみていきます。</p> <p>10/12/8 「グローバル・イシューとしての水」 (若橋えり奈、フランス語学科) 21世紀の水資源問題について、エジプト西部砂漠のオアシスなどを具体的な事例に取り上げて考察します。</p> <p>11/12/15 「ハラール・フードを考える」 正山朋介 (ソフィア、キャンパスサポート) 身近な学生食堂をきっかけに、ハラール認証制度や、日本におけるハラール・フードの普及について考えていきます。</p> <p>12/12/22 「ジェンダーからみるグローバル近代」 (佐々木一恵、法政大学) この回では日本、中国、韓国にアメリカ女性宣教師がもたらした教育をその国の女性がどのように活用していたのかを比較しながら、女子教育をめぐるグローバル・ヒストリーについて考えていきます。</p> <p>13/1/5 「東アジアのアメリカ女性宣教師とグローバル・ヒストリー」 石井紀子 (英語学科) 皆さんにとって身近な女子校の多くは実は日本に100年以上前にやってきたアメリカの女性宣教師が創ったものだということを知っていますか。この回では日本、中国、韓国にアメリカ女性宣教師がもたらした教育をその国の女性がどのように活用していたのかを比較しながら、女子教育をめぐるグローバル・ヒストリーについて考えていきます。</p> <p>14/1/22 まとめと期末レポート *本講義中に期末レポートをかいでもらいます。</p>
課題等に対するフィードバック方法 / Mediums for feedback to students	Loyola/Moodleで行う / Loyola / Moodle 口頭で行う / verbally